

## 平成 21 年 3 月期 第 2 四半期 ( 中間 ) 決算概要

2008 年 11 月 10 日

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
 代表者 : ( 役職名 ) 代表取締役社長 ( 氏名 ) 浅葉 修  
 問合せ先責任者 : ( 役職名 ) 総務部長 ( 氏名 ) 山口 信義  
 : ( TEL ) ( 06 ) 6348-9305

### ( 1 ) 当中間期の事業の経過およびその成果

当中間期は、引き続き原材料価格の高騰に苦戦し、加えて夏場以降は、米国の金融不安に端を発する世界的な景気減速への懸念が高まりはじめ、更に厳しい運営を迫られる状況となりましたが、全社では前年同期比増収・増益を達成しました。

増収・増益の背景は、当中間期前半が比較的堅調に推移したこと、および原材料価格の上昇に対応し不十分ながら価格転嫁を推し進めたことによるもので、売上高は樹脂・化学品・化成品関連を中心に伸長し、利益は繊維関連も含め全体で拡大しました。

- ・ 売上高は、618億5千9百万円となり、前年同期比 + 5億6百万円 ( + 0.8% ) の増収。売上高構成比では、繊維比率 43.1%、化学品・化成品比率 56.9% となりました。
- ・ 営業利益は14億3千8百万円、前年同期比 + 9千3百万円 ( + 7.0% ) の増、経常利益も14億2千7百万円、前年同期比 + 7千7百万円 ( + 5.7% ) の増益となりました。
- ・ 特別損失として、今年度より適用が開始となった低価法への移行による評価損失 9千8百万円を計上し、中間純利益は7億7千3百万円、前年同期比 + 5百万円 ( + 0.8% ) の増益となりました。
- ・ 財務体質は、株主資本比率 28.2% ( 前年同期比 + 4.9ポイント )、負債純資産倍率 ( DER ) 0.1 倍 ( 前年同期は 0.2 倍 )、ROA 6.4% ( 前年同期比 + 0.7ポイント ) に向上しました。

### 【業績】

( 単位 : 百万円 )

	当中間期 (08.4-9月)	利益率	前年中間期 (07.4-9月)	利益率	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	61,859		61,353		+506	+0.8%
営業利益	1,438	2.3%	1,344	2.2%	+93	+7.0%
経常利益	1,427	2.3%	1,350	2.2%	+77	+5.7%
中間純利益	773	1.3%	767	1.3%	+5	+0.8%

以下「 」の中の名称は(株)クラレの商標です。

## (2) 営業の概況

### < 繊維関連 > (減収、増益)

売上高は267億円。前年同期比 15億円(5.5%)の減収。

(衣料分野)

- ・ ユニフォーム分野は、生地コスト、縫製コストの上昇を吸収するための価格改定を鋭意行ったものの、市況悪化に伴い各アパレルの在庫調整による受注減が影響した結果、減収となりました。
- ・ スポーツ分野は、学校体育衣料、スポーツアパレル向けとも順調に拡大し増収、差別化素材並びに二次製品OEMの拡大が寄与しました。
- ・ 婦人・紳士分野は市況低迷により減収を余儀なくされました。
- ・ ブラックフォーマル分野は、新企画メンズフォーマル生地の販売がスタートし、また新規販路の獲得も進み売上を拡大しました。
- ・ 輸出テキスタイルは、中東向けは順調に推移しましたが、欧米向けが不振に終わり全体として減収となりました。
- ・ カジュアル分野は、低採算、非効率な取引の見直しを推進し減収となりました。

以上の結果、衣料関連は減収、利益は横ばいとなりました。

(資材分野)

- ・ 「クラベラ」を中心としたメディカル関連資材、靴資材、工業資材等が順調に拡大し、増収となりました。
- ・ 「クラリーノ」は、軽工品用途は堅調に推移しましたが、市況の悪化を受けた靴や衣料向け販売が苦戦し、減収となりました。
- ・ 産業資材では、自動車関連ゴム資材が好調であった他、電池セパレーター用ビニロン、スーパー繊維「ベクトラン」等も順調に推移し、増収となりました。

以上の結果、資材分野は、増収、増益となりました。

### < 樹脂・化学品・化成品関連 > (増収、増益)

売上高は352億円。前年同期比+20億円(+6.2%)の増収。

(化学品・化成品)

- ・ ポパール関連は、樹脂が繊維分野での市況悪化から伸び悩みましたが、フィルムが旺盛な液晶関連需要を背景に光学用途で大きく拡大し、また水溶性用途も堅調に推移し、増収となりました。
- ・ 「エパール」フィルムは、非食品分野を含む国内包装用途が競合激化の中善戦したものの、壁紙用途が、改正建築基準法施行に端を発する住宅市況の低迷が影響したこと等により、減収となりました。
- ・ 化学品関連は、溶剤やジオールなどの化学品を中心に販売数量が伸長し増収となり

ました。

- ・ イソプレン関連は、熱可塑性エラストマー「セプトン」が国内外で順調に販売数量を伸ばし増収。また、熱可塑性ポリウレタン「クラミロン」も増収となりました。
- ・ メタアクリルは、ペレット輸出、複合材（人工大理石）が伸長しましたが、市況悪化に伴う汎用シートの販売不振や液晶用導光板の減少が影響し、減収となりました。
- ・ 耐熱性ポリアミド樹脂「ジェネスタ」は、鉛規制強化を背景に国内外から電子材料用途で旺盛な引き合いがあり、順調に拡大しました。
- ・ 環境資材関連は、浄水用工業膜や濾過装置の販売が順調に拡大、また、活性炭が空気清浄機フィルター向けに堅調に推移しました。
- ・ マイカは、外壁材の耐火性能アップを図る建材メーカーから旺盛な需要があったことに加え、塗料、摩擦材用途でも販売数量を伸ばし、増収となりました。

(3) 年度業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表	1,260	29	29	17
今回公表	1,260	29	29	17

以上